

鳥取県立図書館の目指す図書館像(第2次改訂版)の柱とキーワードに関する評価

(1)4つの柱

第1の柱 仕事とくらしに役立つ図書館	行動評価	A
目標		
<p>(1)地域経済の活性化と地域の自立への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ビジネス支援サービスの充実 ○働く気持ち応援サービスの充実 ○県政への貢献 ○地域活性化への貢献 		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、メールや電話、FAX等の非来館での資料相談や読書案内を積極的に受け付けた。オンライン会議や感染症対策、助成情報など、コロナ禍において必要な情報を探す方が多数おられた。 ・「新型コロナウイルス以降の新しい『暮らし方』・『働き方』を支える情報棚」を新設し、コロナ禍での生活や仕事に役立つ情報を紹介するチラシやパンフレットの収集と提供を開始した。 ・コロナ禍で役立つインターネットの情報源を紹介するリンク集を作成し、ホームページで公開した。 ・県庁内図書館・議会図書室と連携して県庁職員、県議会議員の資料相談に応えている。 ・県職員、県議会議員の直接来館による資料相談もあり、図書館資料の活用が進んでいる。 ・特に農業分野の情報提供機能の強化を図った ・市町村立図書館でも農業技術が学習できるDVDの購入が広がった。 ・農業支援サービス普及のための講座を各地で開催した。 ・ビジネス情報相談会等専門機関との連携による相談会を継続開催した。 ・鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会と連携し、県立図書館をはじめ、市町村立図書館、高等学校図書館で、グリーン商品のリレー展示を行った。 ・県内で開催する様々なイベントで出前図書館を実施した。 ・放送大学鳥取学習センターと事業連携に関する覚書を締結し、働く気持ち応援コーナーに放送大学で受講可能な教養学部・修士課程のテキストを配架し、生涯を通して学ぶ機会を提供する支援を始めた。 		
<p>(2)豊かなくらしへの貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療・健康情報サービスに充実 ○法情報・困りごと支援・くらしの安心に関するサービスの充実 		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者が暮らしやすい地域づくりに向け、関連機関と連携し、「絵本『ばあばはだいじょうぶ』映画上映会&原作者ミニトーク」を開催した。 ・闘病記が心の支えになったエピソードを募集し、当事者・家族の「不安」を「安心」に変える漫画リーフレットを作成。 ・新型コロナウイルスについての企画展示、新型コロナウイルスに関するリンク集の作成を実施し、県民に正確で最新の情報を届けた。 ・鳥取県医師会・鳥取大学医学部付属病院・県健康政策課・県長寿社会課等と連携し、関連展示を実施した。 		

・行政書士会、司法書士会と共催で毎月各1回無料相談会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、司法書士相談会は中止に、行政書士相談会は、10月以降の実施となった。

(・例年法曹三者と連携して開催している「自由研究お手伝い！小学生裁判傍聴会 法廷に行ってみよう！」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施しなかった。)

(3)ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの推進

○あらゆる利用者に対応したサービスの充実

(子育て応援サービス、高齢者サービス、はたとふるサービスなど)

○多文化サービスの提供

<令和2年度の主な取り組み>

・男性(父親、おじいさん)が絵本などの読み聞かせを行う「読みメン」を普及するため、「読みメンのおはなし会(男性職員による絵本の読み聞かせ)」、図書展示を実施した。

・高齢者を対象とした事業は、新型コロナウイルスの影響でほぼ中止せざるを得なかったが、音読教室については、地元のケーブルテレビ局と放送内容や、放送頻度など協議しながら映像を収録し、テレビ放送を行うことができた。

・手話通訳者と協力し「手話で楽しむおはなし会」を開催している。多様な方に本を楽しむ機会を提供すると共に、手話の普及啓発に努めている。

・日本語字幕と音声ナレーションがついた「バリアフリー映画」の上映会を1回開催した。視覚や聴覚に障がいのある方にも楽しんでもらえる機会を作ると共に、障がいについての理解を深める機会を作った。

(・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、託児サービス、来館での音読教室は実施していない。)

《成果と課題》

○「ばあばはだいじょうぶ」映画上映会&原作者ミニトークの開催によって、認知症、介護について幅広い年齢層の方に知っていただくことができた。

○「闘病記が心の支えになったエピソード募集」により、当事者や家族の体験や心の支えを集め、「闘病記が心の支えになったエピソード」リーフレットを県民へ届ける準備ができた。

○音読教室のテレビ放映を実施という新たな取り組みを行うことができたが、コロナ禍の状況の中で、また、その後も含め、今後の高齢者サービスの在り方の検討が必要である。

○農業分野の情報に対して多くのニーズがあることが分かった。今後も継続して取り組む必要がある。

○県立図書館の起業、創業融資相談会の参加者のうち2組が起業、1組は4月に起業予定である。

○産業支援機関からの紹介で、資料相談を目的に来館されるケースや、産業支援機関の職員が調査のために資料相談を受けに来館されるケースがあり、図書館のビジネス支援機能への理解が進みつつある。

○産業支援機関や、市町村立図書館からビジネス関連の様々な相談に対応することで司書のスキルアップが進んでいる

○中西部地域で図書館のビジネス支援機能の周知を図るため、より一層市町村立図書館と連携し事業展開していく必要がある。

○担当者の異動等により図書館との連携が弱まることのないよう、継続して図書館のビジネス支援機能を周知する必要がある。

《今後の展開》

○「闘病記文庫開設15周年記念シンポジウム2021」で「新型コロナウイルスと闘う～安心して暮らせる地域づくり～」を開催し、感染拡大予防の最新情報をお届けし、正しい理解のもと、安心して暮らせる地域づくりにつなげる。

- 新型コロナウイルスに関する最新情報を収集し、展示やHPを活用し、迅速に県民へ届けていく必要がある。
- コロナ禍への対応やSGDsなども視野にいれて取組みを進める。
- より多様な資料相談に応えるため、職員の資料相談スキルの底上げに努める。
- 農業関係の情報提供機能の強化を継続する。
- 産業支援機関と協力して、継続して相談会を実施する。

第2の柱 人の成長・学びを支える図書館	行動評価	A
目標		
<p>(1)子どもの読書推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの読書推進のための環境整備 ○中学生・高校生の読書推進 ○市町村立図書館と連携した支援 		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生以上の子どもの読書推進を目的とする「子どもと本をつなぐ講座」を、科学読みものをテーマとして県内2カ所で開催した。 ・感染症対策を徹底しておはなし会を実施し、その手法について市町村立図書館と情報交換を行った。 ・制限開館中も「本の福袋」の貸出を継続し、コロナ禍での子どもの読書環境の維持に努めた。 		
<p>(2)学校図書館への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館支援センター ○市町村が行う学校図書館支援のサポート 		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館活用教育普及講座(小・中・特支対象)、学校図書館司書研修会(高・特支対象)を実施した。 ・学校図書館関係職員、市町村立図書館職員、特別支援学校生徒対象の研修会へ講師を派遣した。 ・県教育センターと連携し、司書教諭研修で講義を実施した。 ・授業活用選定用見本図書を貸し出した。 ・各高等学校と特別支援学校の学校図書館に対する訪問相談を実施した。 		
<p>(3)生涯学習への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習としての読書推進 ○生涯学習の場としての有効利用 ○情報リテラシー向上の支援 		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月、季節や時事の話題に応じた様々なテーマ展示、ホームページでの発信、行事・イベントを開催し、あらゆる年代の利用者に図書館資料の利用促進を図った。 ・資料相談の際に資料検索の方法や情報収集の考え方を伝えるよう努めた。 		
<p>(4)居場所としての活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サードプレイスとしての図書館サービス ○子どもの居場所づくり 		

<令和2年度の主な取り組み>

- ・県内の市町村立図書館と連携し「図書館=居場所！？キャンペーン～来て！見て！図書館」を実施した。自分自身や家族で図書館に来られない子どもたちに来館してもらうことを目的に、学校の校外学習や、子ども食堂や公民館等の遠足での来館を促すキャンペーンを行った。来館者にはステッカーをプレゼントした。
- ・図書館を居場所として活用することに賛同してくださる学校図書館に対して、広報用にステッカーを提供した。
- ・令和2年度とっとり県民カレッジ講座「地域を育むサードプレイス」(主催：鳥取県立生涯学習センター)や、鳥取大学サイエンスアカデミー「居場所に居ること」(主催：鳥取大学)等、居場所について考えるイベントへの出前図書館を行った。
- ・「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律(読書バリアフリー法)」が令和元年6月に施行されたことを受け、当県の読書バリアフリーの取り組みを推進するため、県障がい福祉課と連携して鳥取県の視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画の策定に取り組んだ。

《成果と課題》

- コロナ禍といつ来館を促し難い時期であったが、図書館を居場所に活用する取組みを継続することができた。
- 学校図書館関係者への「鳥取県学校図書館活用教育推進ビジョン」の普及が進み、「情報センター」として、年間授業計画の見直しが進んだり、学校図書館が軸となって情報活用能力の育成を進める先進事例が見られるようになったりしている。
- 公共図書館職員向けの研修で学校図書館支援についてのテーマを扱う機会が増え、公共図書館と学校図書館の連携につながっている。
- 学校図書館関係者以外の教諭が図書館活用教育の大切さを学ぶ機会を提供する必要がある。
- 障がいの有無にかかわらず全ての人が等しく読書を通じて文字・活字文化の恩恵を受けることのできる社会の実現を目指すという読書バリアフリー法の趣旨に基づき、令和3年3月「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」を策定した。この計画に基づき、読書バリアフリー推進のための具体的な取組みを関係機関等と連携して実施していく必要がある。

《今後の展開》

- コロナ禍の影響が続く中で、居場所の必要性は一層高まると考えている。感染対策にも注意を払いながら、取組みを推進したい。
- 図書館＝居場所の取組みを進めるにあたって学校図書館への働きかけと連携を進めていきたい。
- 学校図書館活用教育の大切さを広めるため、市町村教育委員会などを訪問し理解を求め必要がある。
- GIGAスクール構想の実現に向けて各市町村でICT環境が整備される中で、図書館活用教育に求められる内容も変化している。これからの学校図書館に必要な要素を見極め、資料提供や研修の開催など、学校図書館や公共図書館支援を充実させていくことが必要である。
- 「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」を一般県民や関係者等に周知するための取組を実施するとともに、この計画に沿って読書バリアフリー推進のための具体的かつ効果的な取組みを実施するために、関係団体等と情報共有や協議を行うための関係者協議会を設置する。

第3の柱 鳥取県の文化をはぐくみ世界に発信する図書館	行動評価	B
目標		
<p>(1)郷土情報の活用・発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○郷土資料の収集・保存 ○郷土資料の活用・伝承 		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県の歴史・文化、文学・文字活字、郷土出身人物等に対する県民の関心を高めるため、関係機関、団体とも連携しながら、資料展と講演会等を有機的に組合せて開催した。 ・県民に文学や活字文化に親しんでもらうため、県内で活躍中の文学者等を講師に迎え、初心者向けの「鳥取文学講座」を初めて開催した。 ・開館30周年関連特別資料展では当館のこれまでの取り組みや県内図書館・関係機関とのネットワークについて紹介した。関連して、県民参加型の展示等も行った。 ・遠藤董特別資料展では、当館所蔵の初公開資料や県内の関係機関・個人との連携により多くの貴重な資料や絵画作品等を紹介することができた。 		
<p>(2)地域文化、文字・活字文化の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出版、書店との連携 ○地方出版文化の振興 		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で図書を購入する際に、地元書店から購入し地域に還元した。 ・「文字・活字文化の日」関連事業として、ブックインとっとり実行委員会と共催し、「ブックインとっとり記念講演会」を開催した。 		
<p>(3)環日本海諸国との交流支援と国際交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環日本海諸国への理解促進 ○環日本海諸国との交流促進 ○国際交流ライブラリーの充実 		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・協定を締結している環日本海諸国の図書館と図書交換を進めた。 ・国際交流ライブラリー講演会では、県中・西部の図書館と共催し、ロシア現代アート、韓国演劇をテーマに開催した。（新型コロナの影響で、全3回のうち1回は中止） ・外国語絵本の読み聞かせと外国語の文化紹介を行った。（年3回：英語、中国語、ロシア語） ・企画展示では、国際交流に関する県政やその時々話題等をテーマに、関連図書を紹介した。 		
<p>《成果と課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料展、講演会、企画展示等を多数開催することにより、鳥取県の魅力や県出身者の業績を発信することができ、県民に関心を持ってもらえる内容となった。また、郷土資料等の利用につながった。 ○初開催の「鳥取文学講座」は能動的な講座となり、文学や文字活字に対する関心や意欲が高まった。 ○郷土情報の発信や情報収集のためには、市町村立図書館、学校図書館、関係機関・団体等とさらに連携する必要がある。 ○郷土資料の保存環境の点検を行い、災害等で滅失・破損等しないよう対策を強化していく。 ○講演会、行事、図書展示、出前図書館等を行うことにより、県民が国際理解や関心を深める機会を提供することができ、関連図書の利用促進につながった。 		

○国際理解のための講演会や行事等は、参加者の関心が高く満足する内容となった。引き続き開催し、国際交流ライブラリーの利用をさらに促進する。

○市町村立図書館と協力し、県内での利用促進や学校等の支援を充実する。

○鳥取県が交流している環日本海の国々について、引き続き図書館としての交流や、国際理解のための活動を行う。

《今後の展開》

○郷土資料の収集・整理、郷土情報の蓄積、情報発信をこれまで以上に努める。また、これまで当館で行った展示等を県内図書館や学校図書館で行い、広く県民に郷土情報を積極的・魅力的に発信していく。

○郷土情報の発信及び情報収集できるよう関係機関等と連携していく。

○貴重な郷土資料のデジタル化を継続し、紙媒体と併せた利活用の普及啓発にさらに努める。また、資料保存のための対策を強化する。

○多文化共生をテーマにした交流イベントを開催し、図書館が外国人住民と地域住民の交流の場となるようにする。

○鳥取県が交流しているモンゴル中央県の県立図書館とも図書交換を通じた交流を始め、県内在住のモンゴル人への資料提供や、国際理解のためのモンゴル語の読み聞かせや文化紹介等のイベントを行う。

第4の柱 知の拠点としての図書館	行動評価	B
目標		
(1) デジタルネットワークへの対応		
○デジタルアーカイブの構築		
○国、他機関等との連携		
○Webサービスの強化		
＜令和2年度の主な取り組み＞		
・郷土資料のデジタル化を継続して行った。		
・公文書館、博物館、埋蔵文化財センターとの共同で、デジタルアーカイブシステムの構築を行った。(令和3年3月1日稼働)		
・市町村立図書館、大学図書館との連携を図り、公開用のシステムを検討するため、『デジタル化計画ネットワーク会議』を開催した。		
・国立国会図書館サーチとの連携を継続した。		
・「とっとりデジタルコレクション公開記念シンポジウム」を開催し、県民の利活用の啓発を行った。		
(2) 情報へのアクセス環境の整備		
○市町村立図書館等との連携・協働		
○アウトリーチ型サービスの推進		
○知へのナビゲーションの充実		
＜令和2年度の主な取り組み＞		
・WiFi環境(フリースポット)を改善し、館内どこでも利用できるようアクセスポイントを増設した。		
・全公共図書館で新聞記事DB(朝日新聞、読売新聞)が利用できる環境を整備した。		
・県内図書館等の情報提供サービスを支援するために、全県2日以内に届く物流システムによる配本を継続している。		

<p>(3)人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員育成 ○市町村立図書館職員、読書推進活動関係者等への支援
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料のデジタル化に対応する職員養成のため、資格の取得を進めている。
<p>《成果と課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○郷土資料のデジタル化済資料の増加。 ○利用者が必要とする資料、情報は多岐にわたっており、資料をデジタル化する際は、その選定と優先順位を考慮する必要がある。 ○4館の連携によりデジタルアーカイブシステムを公開することができた。 ○デジタルアーカイブシステムを周知し、利活用を進める必要がある。
<p>《今後の展開》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○デジタルアーカイブシステムの利活用を進めるための研修会等を実施する。 ○ジャパンサーチとの連携を行う。 ○郷土資料のデジタル化を継続して行うとともに、県民等の利活用を普及啓発していく。

(2)4つのキーワード

<p>1 ネットワーク 全県で県立図書館のサービスを利用できる環境整備</p>	<p>行動評価</p>	<p>B</p>
<p>目標</p>		
<p>(1)市町村立図書館との連携</p>		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞蔵Ⅱビジュアル」(朝日新聞)、「ヨミダス歴史館」(読売新聞)、「ルーラル電子図書館」(農山漁村文化協会)を県内全市町村立図書館で利用できるよう契約した。 ・市町村立図書館等に対し、宅配便によるリクエスト本の配送と搬送車による大量貸出等を行った。 ・県内図書館等の図書館経営を支援するため訪問相談を行った。 ・県内の図書館の情報提供機能の支援のため資料相談を行った。 ・高度化・多様化する利用者のニーズに対応するために、図書館職員のスキルアップを目的とした図書館業務専門講座(年4回)・新任職員のための図書館職員実務研修会を実施した。 		
<p>(2)物流システムの活用促進</p>		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全県2日以内に各図書館に資料を届ける物流システムを維持し、県内図書館の資料提供機能の支援を行った。 		
<p>(3)危機管理への対応</p>		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大に対する各図書館の対応状況についてホームページで公開し、情報提供した。 		

<p>《成果と課題》</p> <p>○物流システムの整備により、各図書館等が必要とする資料を迅速に届けることができ、情報の速やかな提供につながっている。</p> <p>○災害発生時の対応については、県内の図書館で速やかに情報共有できるシステムが必要である。</p>
<p>《今後の展開》</p> <p>○県立図書館で事業を実施するだけでなく、市町村立図書館との協働を意識して企画立案することが求められる。</p> <p>○働き方改革などの影響で経費は高騰しているが、県立図書館の使命を果たすため物流システムの現在の体制を堅持していく必要がある。</p> <p>○県内図書館のBCP計画に関する情報交換等が必要である。</p>

2 専門性 図書館が県民の課題解決を支援	行動評価	B
目標		
(1)所蔵資料の充実及びサービスの充実		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回館内職員を対象とした資料相談(レファレンス)勉強会の開催し、専門的なスキルを備えた職員の養成に取り組んでいる。 ・当館で受けた資料相談(レファレンス)事例を県民、市町村立図書館・学校図書館等と共有する目的で国立国会図書館データベースに登録するよう努めている。 ・新聞記事データベースをはじめ、農業、ビジネス、判例、雑誌記事等に関するデータベースを資料相談に積極的に活用し、本に留まらない最新情報や専門的な情報の提供に努めている。 		
(2)専門機関との連携		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県福祉相談センター、中小企業労働相談所みなくる鳥取、鳥取県よろず支援拠点等の各分野の専門機関との連携を継続しており、資料の提供だけにとどまらない利用者への情報提供を行っている。 		
(3)進化する情報化への対応		
<p><令和2年度の主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館システム更新のための情報収集、予算要求を行った。 ・高度化・多様化する利用者のニーズに対応するために、図書館職員のスキルアップを目的とした図書館業務専門講座(年4回)・新任職員のための図書館職員実務研修会を実施した。(再掲) 		
<p>《成果と課題》</p> <p>○資料相談事例の共有や館内研修により職員間でのノウハウの共有ができつつあり、専門的なレファレンスに対応できる職員の層が厚くなってきている。</p> <p>○館内外の研修を通じて、進化する情報ツールの活用方法を習得し実務に活かすことができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館システム更新のための調達の準備を行った。 <p>○クラウド化や電子図書館への対応のための情報収集が必要である。</p> <p>○研修の実施に当たっては、先進的な事例や新しい取組・サービスが学べる機会を提供することを意識し企画した。</p>		

《今後の展開》

- 県民ニーズの多様化や社会の情報化に対応するために、職員研修やノウハウの共有を継続する必要がある。
- 進化する情報化へ対応した図書館システムの調達・構築を行う。
- クラウド化や電子図書館への対応のための情報収集を行う。

3 発信力	行動評価	B
目標		
(1) 県民に対する積極的なアプローチ		
<p>＜令和2年度の主な取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス対策やそこでの生活を応援する展示やサービスを展開し県民の図書館利用を促した。・マスコミや関係機関に積極的に情報提供を行った。・タイムリーな企画、関係機関と連携した企画を行い、マスコミや関係機関等への情報提供、ホームページ、メールマガジン、ツイッター、フェイスブックによる情報発信を行った。・積極的に図書館展示を行った。		
(2) 多様な図書館活用の提案・普及		
<p>＜令和2年度の主な取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none">・開館30周年記念事業において、図書館ツアーやフォトコンテスト、ひと箱古本市、トークイベントなどの県民参加型の事業を多く開催した。・図書館がある尚徳町全体のにぎわいづくりを目的に、とりぎん文化会館、県立公文書館との連携強化を図り、展示等を実施した。・全国図書館大会の報告書において、鳥取県立図書館のサービスについて取り組みを発信した。・コロナ禍において、迅速で安心・安全なサービス対応について、全国版のニュースや出版物で取り上げられ全国へ発信した。		
(3) Webの特性を生かした情報発信		
<p>＜令和2年度の主な取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none">・開館30周年記念フォーラムをオンライン開催し、コロナ禍に対応した。一部の講演を後日YouTubeで公開し、より多くの人に視聴してもらえる工夫を図った。・ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどのソーシャルメディアを積極的に活用した情報発信を行った。・全国図書館大会(リモート)において鳥取県立図書館のくらし支援サービスについての取り組みを発信した。		
《成果と課題》		
<ul style="list-style-type: none">○マスコミや関係機関に積極的に情報提供を行った結果、新聞・テレビに取り上げられる回数が増加することにより、県民への認知度が高まり、利用の増加につながった。○資料の利用促進を図るため、積極的に図書館展示を行い、利用の増加につながった。		

《今後の展開》

- 県立図書館の事業や取り組みについて、マスコミ等を活用した積極的かつ効果的な情報発信を行う。
- ホームページの充実、ソーシャルメディアにより若い方の図書館利用を増やすとともに、人から人につながる情報発信を行う。

4 保存と公開	行動評価	C
目標		
(1)適切かつ計画的な資料保存等の推進		
＜令和2年度の主な取り組み＞		
・将来的な資料保存のため、対策が必要な資料について燻蒸(消毒)処理を行った。		
・郷土資料の出版情報に常に気を配り、網羅的な収集・保存に努力した。		
(2)デジタル化資料の利活用と県民参加		
＜令和2年度の主な取り組み＞		
・デジタル化資料の利活用を進めるためのシンポジウムを開催。(3月14日)		
(3)書庫問題への対応		
＜令和2年度の主な取り組み＞		
・出版年が古く、利用のない図書を中心に不要資料の除籍を進め、書庫の狭隘化へ対応した。		
・除籍基準に則って図書の除籍を行い、ひっ迫する書庫の状況の改善に努めた。		
・除籍以外に、書庫にある不要資料を廃棄することで、書庫スペースの確保に努めた。		
《成果と課題》		
○除籍などを進めることで、書庫スペースの狭隘化に対して対策を行った。		
○デジタルアーカイブシステムの構築を行ったが、システムやコンテンツの利活用をすすめる必要がある。(再掲)		
《今後の展開》		
○郷土資料は、出版情報に目配りし、網羅的に収集に努めていく。		
○郷土資料のデジタル化を継続して行っていく。		
○MLA(公文書館、図書館、博物館)連携による、デジタルアーカイブシステムの運用と利活用の促進を図る。		
○デジタルでのみ公開され紙媒体では作成されない資料の収集・保存について、公文書館とも連携しながら検討を行っていく必要がある。		